

平成 29 年度第 2 回山梨県森林総合研究所「森の教室」運営委員会会議結果のお知らせ

委員会の名称	平成 29 年度第 2 回山梨県森林総合研究所「森の教室」運営委員会
日 時	平成 30 年 2 月 22 日 (木) 15:00 ~
場 所	山梨県森林総合研究所 大研修室
出席者	(委員) 大澤 正嗣、田中 伴泰、時田 恵、(欠席 矢川 満、河野 東) (事務局) (公財)やまなし文化学習協会：「森の教室」管理責任者 森林総合研究所：所長、研究員 (7)、技能員 (1)、 林業普及指導員(1)
審 議	<p>1. 事務局からの説明</p> <p>(1) 平成 29 年度事業実施状況</p> <p>1) 森の教室行事实績</p> <p>2) 森の教室利用状況</p> <p>3) 出前講座等の実績</p> <p>(2) 平成 29 年度第 1 回運営委員会でのご意見と取り組み</p> <p>(3) 平成 30 年度事業計画</p> <p>1) 森の教室主催事業予定</p> <p>2) 展示室等の写真展・特別展示予定</p> <p>3) 県産のヒノキで作る電動系ノコ工作実施予定</p> <p>4) 期間限定工作予定</p> <p>5) 出前講座等の実施内容</p> <p>(4) その他</p> <p>2. 委員からの意見・審議</p> <p>○活動の様子を取材したブログからは、参加したくなるような楽しい様子が伝わってくる。</p> <p>○モノづくり講座の需要としては、流行りの燻製や人気のあるミニ門松が参考になる。</p> <p>○森林教育が主体であるから、教育的要素のある講座をこれからも続けてほしい。</p> <p>○リピーターを増やすことが大事であり、その効果が出ている。</p> <p>○県外からの参加者が増えており、参加するきっかけとして、インターネットによるケースが増えている。</p> <p>○最近の研究成果の展示パネルなどは、課題研究に取り組んでいる高校生にとって、研究の取りまとめやポスター作製の助けになる。</p> <p>○出前講座は教員の間にも広まりつつあり、総合学習などとタイアップして行ったスタイルは新しいと感じた。</p> <p>○現場の教員は野外活動の経験がないことから、研究機関のサポートはありがたい。</p> <p>○チラシなどに総合学習の具体例を載せれば、総合学習でも十分利用できるということが理解されて、伝わると思う。</p> <p>○自然観察をより有意義なものにするには、一緒に授業を作り上げるスタイルで行うなど、協力体制として取り組むのがよい。</p> <p>○半数以上の講座でリピーターが多く、活動が評価されているが、学校関係ではまだまだ利用できる余地はあると考える。</p> <p>○小学校が郊外活動の内容を森の教室へ情報提供するなど、小学校と「森の教室」の両者の接点作りが課題である。</p> <p>○県外の同様の施設と情報交換することで活動の視野が広がる。色々な分野との連携や県外施設との関わりなども必要である。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ○県民や学校への周知やそれらとのタイアップの点で、まだ考えることはある。 ○「森の教室」のPRについては、県外についてもできる範囲で取り組んでもらいたい。 ○「森の教室」は親子参加のイベントを基調に考えられているので、20代の学生などについては、出前講座に力を入れたほうがよい。 ○アクティブラーニングを行うとき、自然観察や屋外体験は効果をすごく顕著に感じやすい。これを体験できるのがこの「森の教室」であり、まさに学びの最適地であると思う。 ○プラネタリウムについては、夜の森に注目して森林の理解につなげたらよい。 ○世界が機械中心の社会に舵を切る中、人間は緑がないと生活できないので、改めて緑の重要性を訴えていけたらいいと思う。
お問い合わせ先	<p>森林総合研究所「森の教室」運営委員会 事務局 本多 電話番号：0556-22-8001； ファックス番号：0556-22-8002</p>